

平成23年度吉川市市民意識調査報告書

— 概要版 —



吉川市
Yoshikawa City

平成24年3月

吉川市役所はISO9001供給者適合宣言をしています。

市民意識調査の概要

1. 調査の趣旨

この調査は、市政に対する市民ニーズが多様化している中で、市の取り組みについての市民の意向（満足度・重要度）や意識を調査・把握することを目的としています。

また、当市では、ISO9001 供給者適合宣言を行っておりますので、このシステムに基づく要求事項8. 2. 1により、顧客満足度を監視する調査として位置付けています。

この調査の実施に当たり、市内在住の20歳以上の男女1, 500人（平成23年9月1日現在）の方にご協力いただきました。

なお、調査項目、調査時期等については次のとおりです。

2. 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) あなたの幸福感
- (3) 吉川市の住み心地
- (4) あなたの現状と認識
- (5) 市の取り組みについての満足度
- (6) 市の取り組みについての重要度
- (7) 行政サービスについて



3. 調査時期

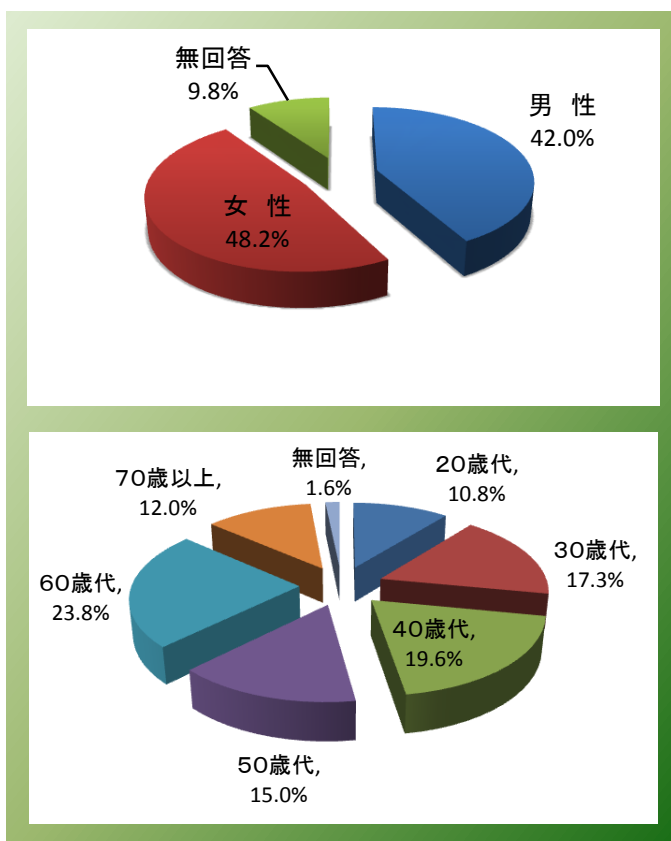
平成23年10月6日（木）から21日（金）

4. 調査方法

郵送配布・郵送回収による調査

5. 回収結果

有効回収数（率） 874人（58.3%）



(1つ選択)

区分	実数	割合
男性	367	42.0%
女性	421	48.2%
無回答	86	9.8%
母数	874	100.0%

(1つ選択)

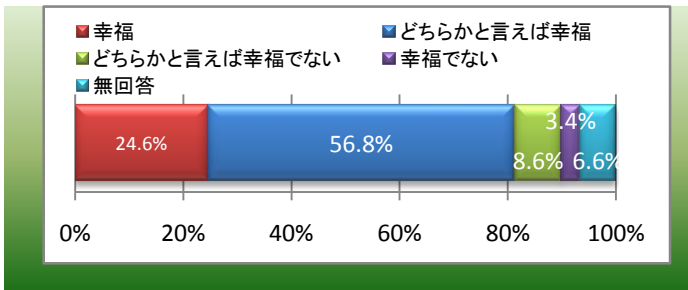
区分	実数	割合
20歳代	94	10.8%
30歳代	151	17.3%
40歳代	171	19.6%
50歳代	131	15.0%
60歳代	208	23.8%
70歳以上	105	12.0%
無回答	14	1.6%
母数	874	100.0%

2. 回答者の幸福感

～ 回答者の8割以上が「幸福・どちらかと言えば幸福」と感じている ～

回答者の主観的な「幸福感」についてうかがったところ、「幸福」215人(24.6%)、「どちらかと言えば幸福」496人(56.8%)、「どちらかと言えば幸福でない」75人(8.6%)、「幸福でない」30人(3.4%)と回答しています。

「幸福・どちらかと言えば幸福」は81.4%、「どちらかと言えば幸福でない・幸福でない」は12.0%となっており、回答者の8割以上が幸福であると感じています。

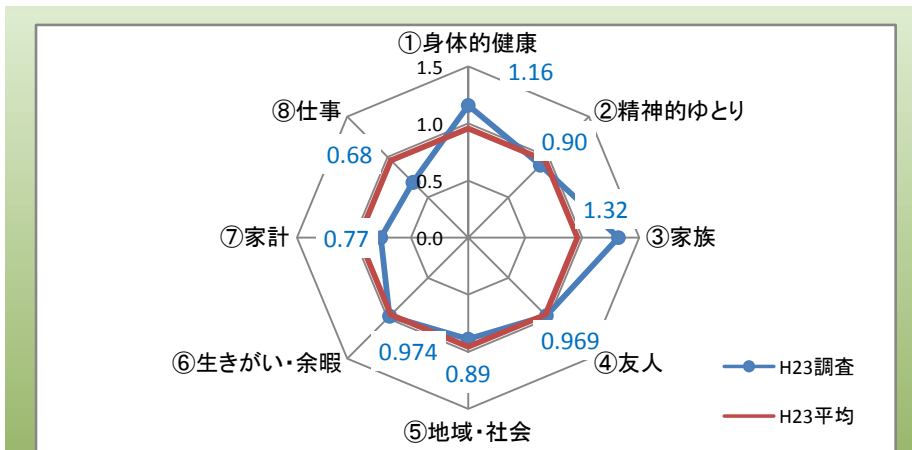


区分	実数	割合
幸福	215	24.6%
どちらかと言えば幸福	496	56.8%
どちらかと言えば幸福でない	75	8.6%
幸福でない	30	3.4%
無回答	58	6.6%
計	874	100.0%

～ 項目別トップ3 ～

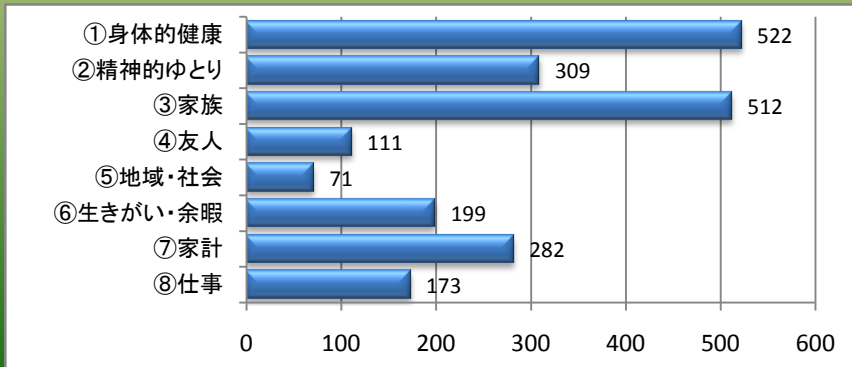
「満たされていると感じる項目」は「家族」「身体的健康」「生きがい・余暇」

「幸福感を判断する際に重視する項目」は「身体的健康」「家族」「精神的ゆとり」



幸福感を判断する項目についての満足度をみると、全項目の平均値はプラス0.96ポイントとなっています。仕事(0.68)と家計(0.77)に対する満足度がやや低いものの、全項目プラス評価となっています。

①～⑧の満足感について同じ、その回答を「満足」2ポイント、「どちらかと言えば満足」1ポイント、「どちらかと言えば不満」マイナス1ポイント、「不満」マイナス2ポイントに変換してレーダーチャートを作成しました。

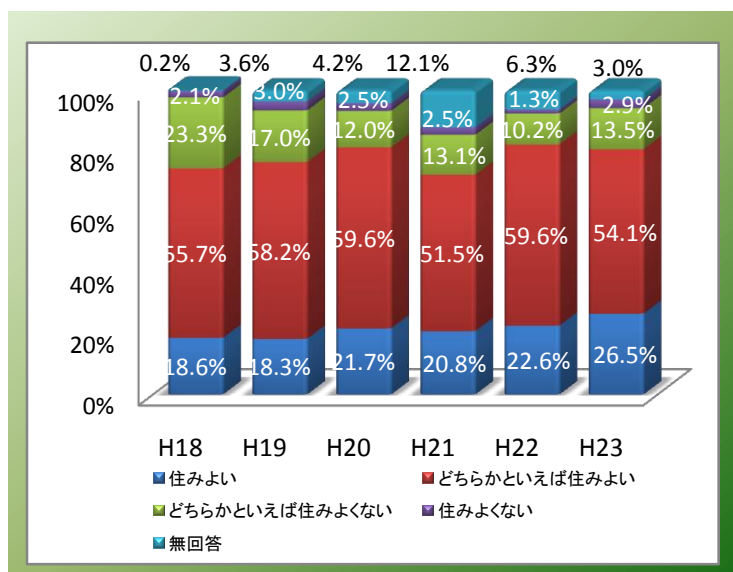


幸福かどうかを判断する際に重視する項目を3つ選んでいただいたところ、「身体的健康」、「家族」、「精神的ゆとり」が上位に上がりました。



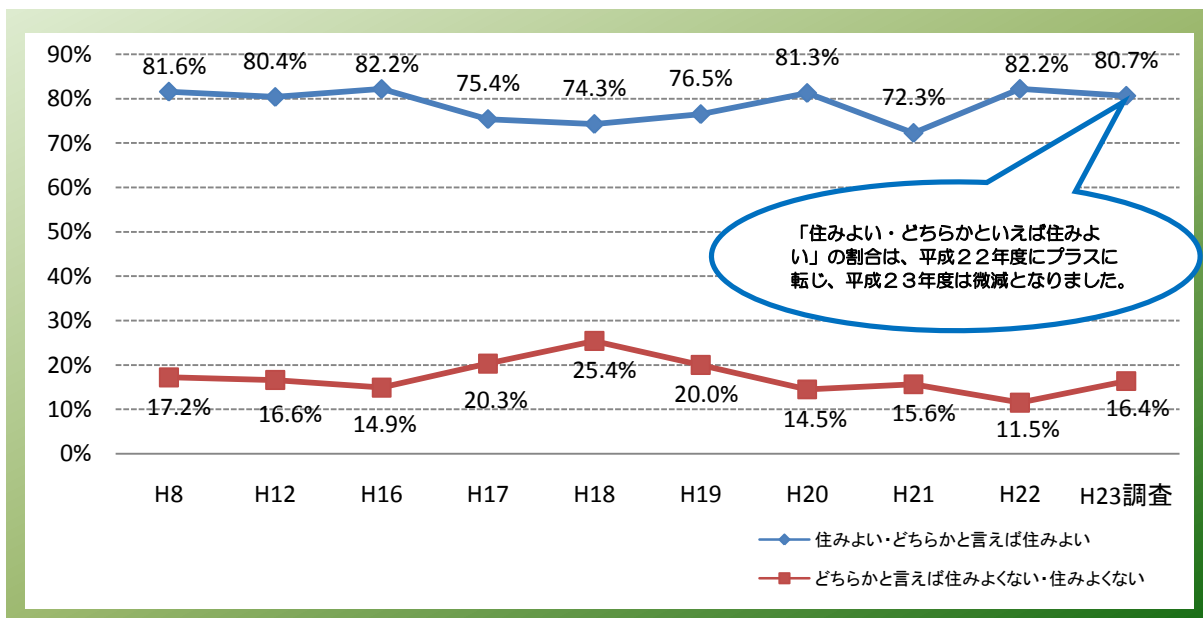
3. 吉川市の住み心地

～ 回答者の8割以上が「住みよい・どちらかと言えば住みよい」と感じている ～



吉川市の住み心地を聞いたところ、「住みよい」232人（26.5%）、「どちらかと言えば住みよい」473人（54.1%）、「どちらかと言えば住みよくない」118人（13.5%）、「住みよくない」25人（2.9%）、「無回答」26人（3.0%）となっています。「住みよい・どちらかと言えば住みよい」の合計は、80.7%で回答者の8割が「住みよい・どちらかと言えば住みよい」と感じています。前年度の調査（82.2%）と比較してマイナス1.5ポイントとなり、今年度は住み心地の評価が減少していますが、「住みよい」を見ると26.5%で、前年度の調査（22.6%）と比較してプラス3.9ポイントとなり、住み良さの質が高まっていることが伺えます。過去6か年の調査結果を見ると「住みよい・どちらかと言えば住みよい」は約72%から約82%の間の範囲で推移しています。

～ 平成22年度調査の「住みよい・どちらかと言えば住みよい」と比べ1.5ポイント減少 ～



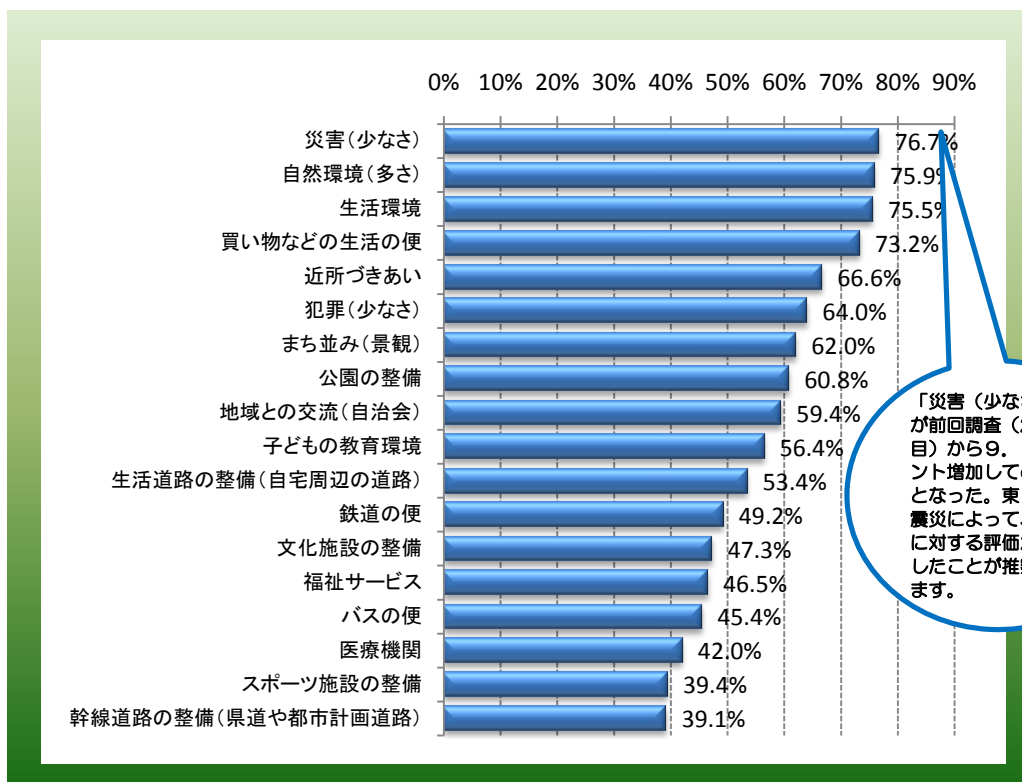
これまで実施した調査の「吉川市の住み心地」について経年変化を見てみると「住みよい・どちらかと言えば住みよい」は、平成21年度（72.3%）に平成20年度（81.3%）と比較してマイナス9.0ポイント減少しましたが、平成22年度（82.2%）には、過去最も高かった平成16年度の割合まで増加し、平成23年度も同程度の水準を維持しています。

「どちらかと言えば住みよくない・住みよくない」は、平成18年度（25.4%）を境に減少傾向となっていました。平成23年度（16.4%）は、前年度（11.5%）と比較してプラス4.9ポイントになり、吉川市の住み心地はやや低下しています。



3-2. 吉川市の住み心地を「よい」とする理由

～ 住み心地を「よい」と感じる点として、7割以上の回答者が「災害（少なさ）」、「自然環境（多さ）」、「生活環境」、「買い物等の生活の便」をあげている ～



「災害（少なさ）」が前回調査（2番目）から9.4ポイント増加しての1位となった。東日本大震災によって、災害に対する評価が変化したことが推察されます。

（該当するもの全て選択）

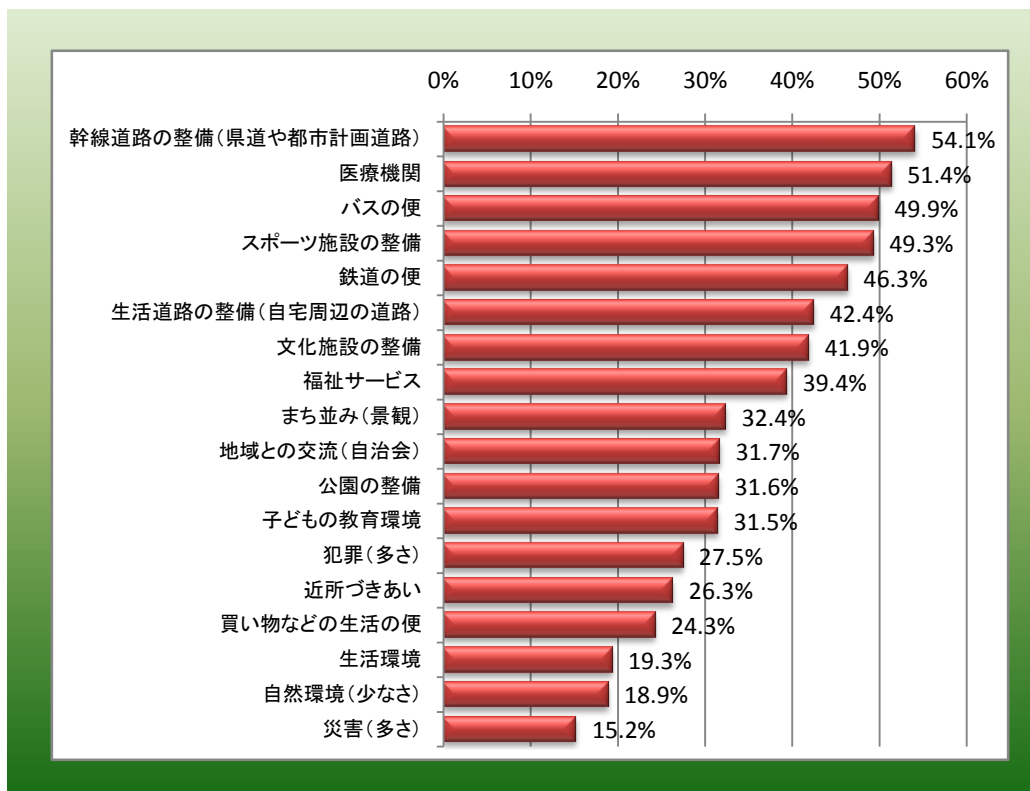
区分	実数	割合
災害(少なさ)	670	76.7%
自然環境(多さ)	663	75.9%
生活環境	660	75.5%
買い物などの生活の便	640	73.2%
近所づきあい	582	66.6%
犯罪(少なさ)	559	64.0%
まち並み(景観)	542	62.0%
公園の整備	531	60.8%
地域との交流(自治会)	519	59.4%
子どもの教育環境	493	56.4%
生活道路の整備(自宅周辺の道路)	467	53.4%
鉄道の便	430	49.2%
文化施設の整備	413	47.3%
福祉サービス	406	46.5%
バスの便	397	45.4%
医療機関	367	42.0%
スポーツ施設の整備	344	39.4%
幹線道路の整備(県道や都市計画道路)	342	39.1%
母数	874	100.0%

吉川市の住み心地を「よい」と感じる理由をうかがった結果、「災害（少なさ）」が76.7%（前回調査2番目）で最も多く、2番目「自然環境（多さ）」が75.9%（前回調査1番目）、3番目「生活環境」が75.5%（前回調査6番目）の順番となっており、平成23年度では、「災害（少なさ）」が前回調査から9.4ポイント増加して1番になったことと、理由の上位に「生活環境」が上がってきているのが特徴です。



3-3. 吉川市の住み心地を「わるい」とする理由

～ 住み心地を「わるい」と感じる点として、5割以上の回答者が「幹線道路の整備（県道や都市計画道路）」、「医療機関」をあげている ～



(該当するもの全て選択)

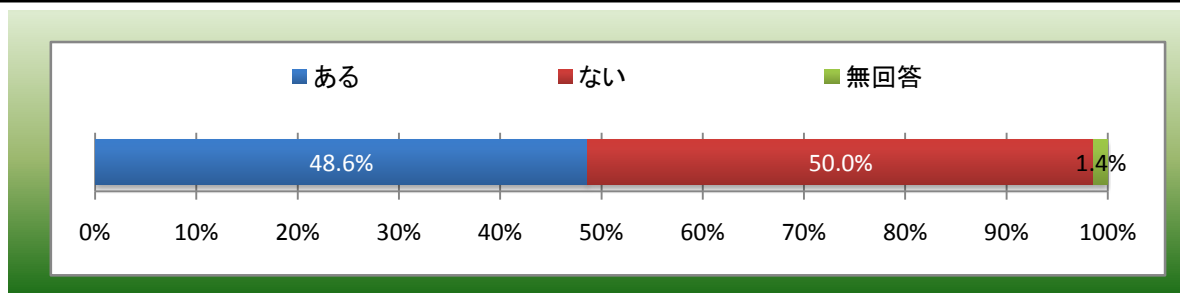
区分	実数	割合
幹線道路の整備(県道や都市計画道路)	473	54.1%
医療機関	449	51.4%
バスの便	436	49.9%
スポーツ施設の整備	431	49.3%
鉄道の便	405	46.3%
生活道路の整備(自宅周辺の道路)	371	42.4%
文化施設の整備	366	41.9%
福祉サービス	344	39.4%
まち並み(景観)	283	32.4%
地域との交流(自治会)	277	31.7%
公園の整備	276	31.6%
子どもの教育環境	275	31.5%
犯罪(多さ)	240	27.5%
近所づきあい	230	26.3%
買い物などの生活の便	212	24.3%
生活環境	169	19.3%
自然環境(少なさ)	165	18.9%
災害(多さ)	133	15.2%

吉川市の住み心地を「わるい」と感じる理由をうかがった結果、「幹線道路の整備（県道や都市計画道路）」が54.1%（前回調査2番目）で最も多く、2番目「医療機関」が51.4%（前回調査1番目）、3番目「バスの便」が49.9%（前回調査3番目）の順番となり、平成18年度から平成23年度までの6か年度で理由の上位に大きな変更はありません。



4-1. 自治会、町会活動などの地域活動への参加状況

～ 回答者の約5割が自治会、町会活動などの地域活動に参加している ～



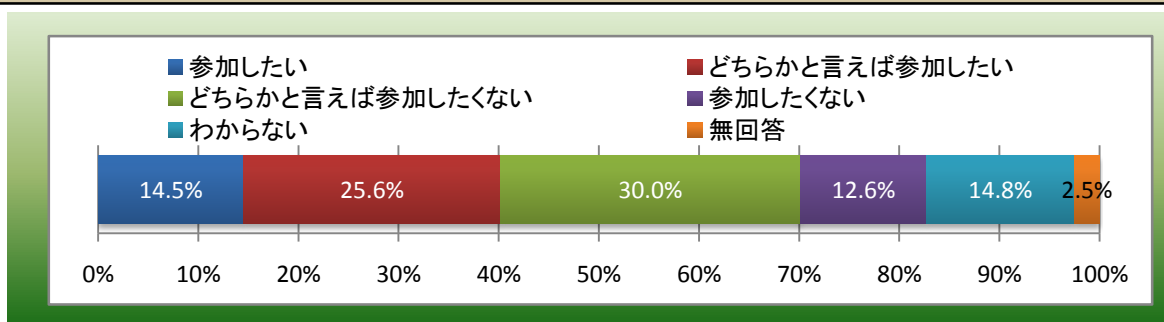
自治会、町会活動などの地域活動に参加したことがあるかかったところ、回答者の約5割が「ある」（48.6%）としています。

一方、「ない」（50.0%）を選んだ理由は次のとおりでした。

区分	実数	割合
仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから	227	28.6%
活動に参加しなくても生活に支障がないから	124	15.6%
どのような活動をしているかわからないから	122	15.4%
活動に興味がないから	97	12.2%
役員等の責任を負うのが面倒だから	80	10.1%
近所づきあいがわずらわしいから	52	6.6%
自治会活動は必要性がないから	24	3.0%

4-2. 自治会やボランティア・NPO活動への参加意向

～ 回答者の約4割が今後参加してみたいと考えている ～



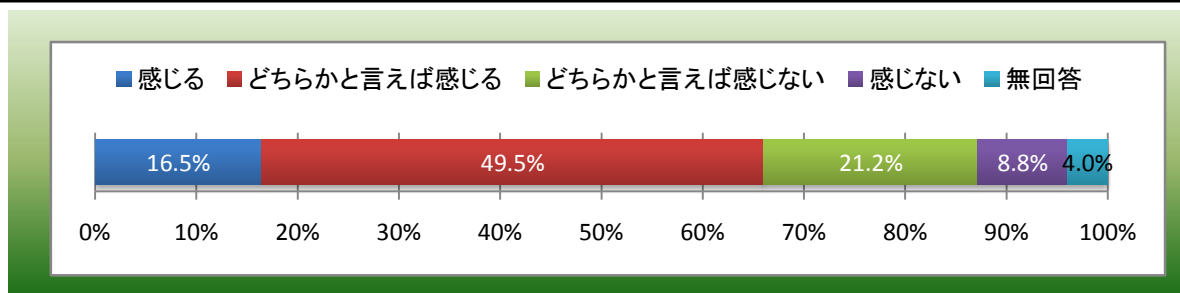
区分	実数	割合
地域活動	165	19.5%
福祉	99	11.7%
スポーツ	98	11.6%
まちづくり	96	11.3%
子ども健全育成	84	9.9%
防犯・防災・交通安全	81	9.6%
文化芸術	72	8.5%
保健・医療	57	6.7%
国際交流・国内交流	49	5.8%
社会教育	34	4.0%

自治会やボランティア、NPO活動への参加意向をうかがったところ、「参加したい・どちらかと言えば参加したい」の割合は40.1%となりました。

「参加したい」、「どちらかと言えば参加したい」と回答した人に、参加したいと考える活動をうかがったところ、「地域活動」（19.5%）、「福祉」（11.7%）、「スポーツ」（11.6%）が希望する活動のうち、上位の3つとなりました。

4-3. 男女平等意識

～ 回答者の約7割が男女が平等に活動できていると感じている ～



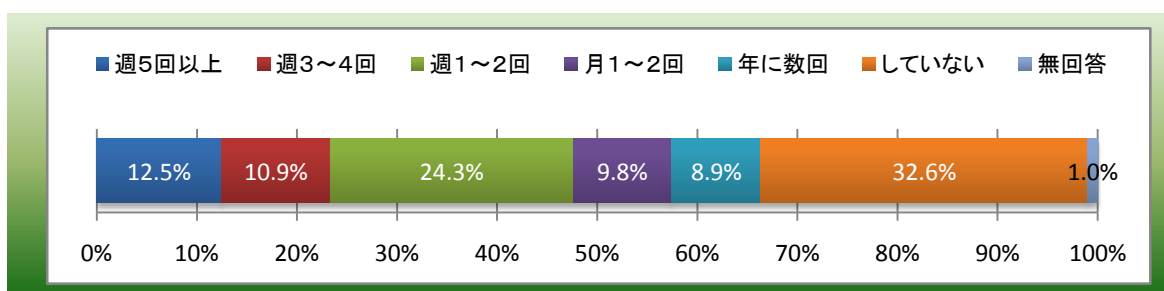
家庭や地域、職場などで男女が平等に活動できていると感じるようになったところ、回答者の約7割が男女平等と「感じる・どちらかと言えば感じる」（66.0%）としています。

「どちらかと言えば感じない・感じない」（30.0%）とした理由は次のとおりでした。

区分	男性が優遇されている		女性が優遇されている		無回答	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
家庭生活で	121	46.2%	26	9.9%	115	43.9%
職場で	166	63.4%	23	8.8%	73	27.9%
地域社会で	122	46.6%	21	8.0%	119	45.4%
社会通念・慣習などで	162	61.8%	13	8.0%	87	33.2%

4-4. 運動やスポーツの頻度

～ 回答者の約5割が週1回以上運動やスポーツを行なっている ～

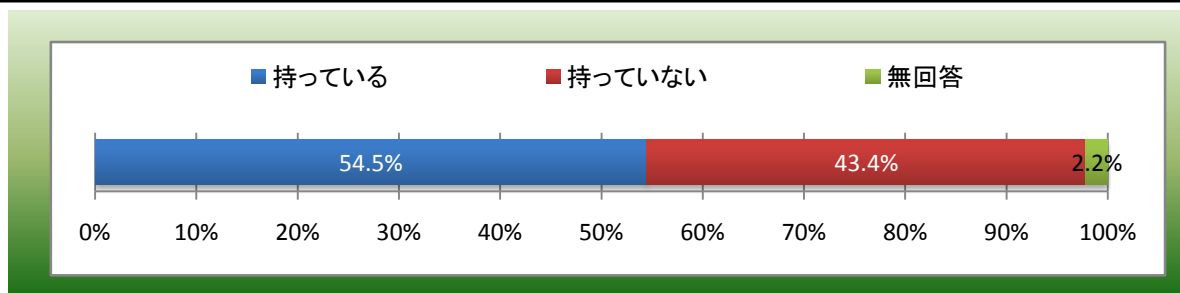


区分	実数	割合
仕事や家事で時間がないから	261	34.4%
身近に利用できる施設や場所がないから	105	13.8%
特に理由はない	82	10.8%
お金がかかるから	79	10.4%
運動やスポーツが好きではないから	61	8.0%
一緒にする友達や仲間がないから	57	7.5%
高齢だから	37	4.9%
身体が弱いから	32	4.2%
施設や場所の予約が取れないから	13	1.7%
指導者がいないから	5	0.7%

運動やスポーツを行う頻度が「月1～2回」、「年に数回」、「していない」と回答した方に理由を聞いたところ、「仕事や家事で時間がないから」が34.3%で最も割合が高く、ついで「身近に利用できる施設や場所がないから」（13.8%）、「特に理由はない」（10.8%）、「お金がかかるから」（10.4%）の順に高い結果となりました。

4-5. 「かかりつけ医」の有無

～ 回答者の約5割が「かかりつけ医」を持っている ～



「かかりつけ医（歯科医を除く）」を持っているか伺ったところ、回答者の約5割が「持っている」（54.5%）としています。

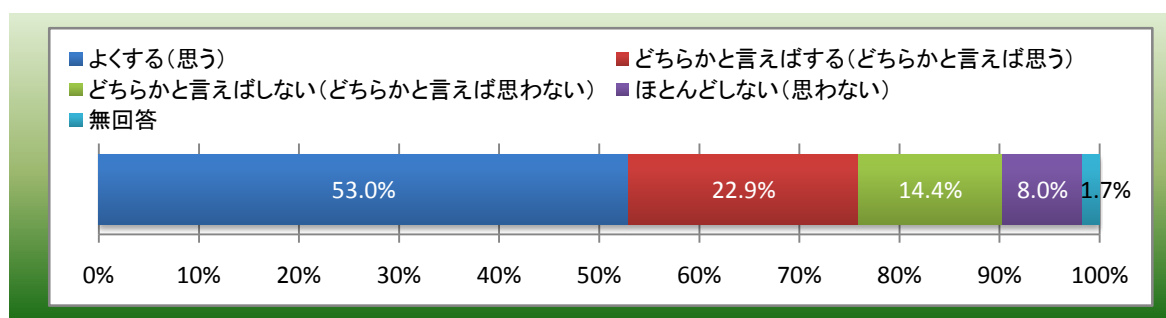
回答者が「持っていない」（43.4%）を選んだ理由は次のとおりでした。

区分	実数	割合
「かかりつけ医」を必要とする病気になったことがないから	172	34.5%
病状等でその都度、受診先を決めており、特に決まった医師がないから	166	33.3%
病気等にかかったらまず病院へ行くようにしているから	85	17.0%
「かかりつけ医」にしたいような診療所がないから	62	12.4%
病気になっても医師の診療は受けたくないから	5	1.0%



4-6. 市内商店での買い物状況（意向）

～ 回答者の約8割が市内の商店で買い物をしている（したいと考えている） ～



市内の商店で買い物をするか（したいと思うか）伺ったところ、約8割の回答者が「よくする（思う）・どちらかと言えばする（どちらかと言えば思う）」と答えています。「どちらかと言えばしない（思わない）・しない（思わない）」と回答した方に、市内の商店で買い物をする（したい）と思うために必要と考えるものを伺ったところ、「値段が安い、サービスやポイントなど特典がある」（19.3%）、「駐輪場・駐車場がある」（19.3%）、

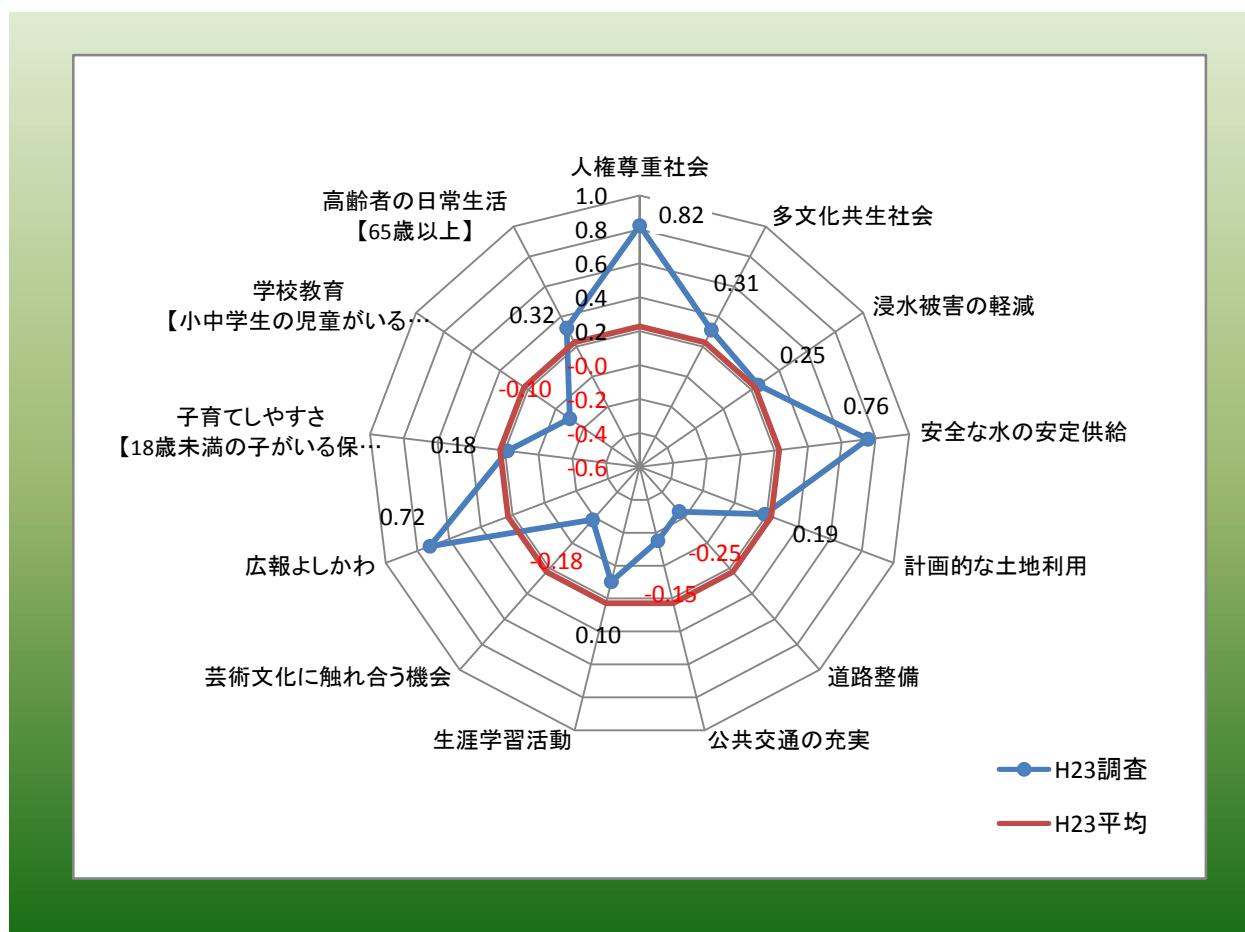
区分	実数	割合
値段が安い、サービスやポイントなど特典がある	90	19.3%
駐輪場・駐車場がある	90	19.3%
商店街などまとまった商業エリアがある	87	18.6%
新商品や流行の商品など品揃えが豊富	85	18.2%
接客態度がよい、店舗が清潔で雰囲気がよい	59	12.6%
駅やバス停から近い	37	7.9%

「商店街などまとまった商業エリアがある」（18.6%）、「新商品や流行の商品など品揃えが豊富」（18.2%）が同程度に求められています。

5. 吉川市の取り組みについての満足度

～ 満足度トップ3 ～

「人権尊重社会」、「安全な水の安定供給」、「広報よしかわ」



吉川市の取り組みについての満足度を伺い、その回答を「満足」2ポイント、「どちらかと言えば満足」1ポイント、「どちらかと言えば不満」マイナス1ポイント、「不満」マイナス2ポイントに変換してレーダーチャートを作成しました。

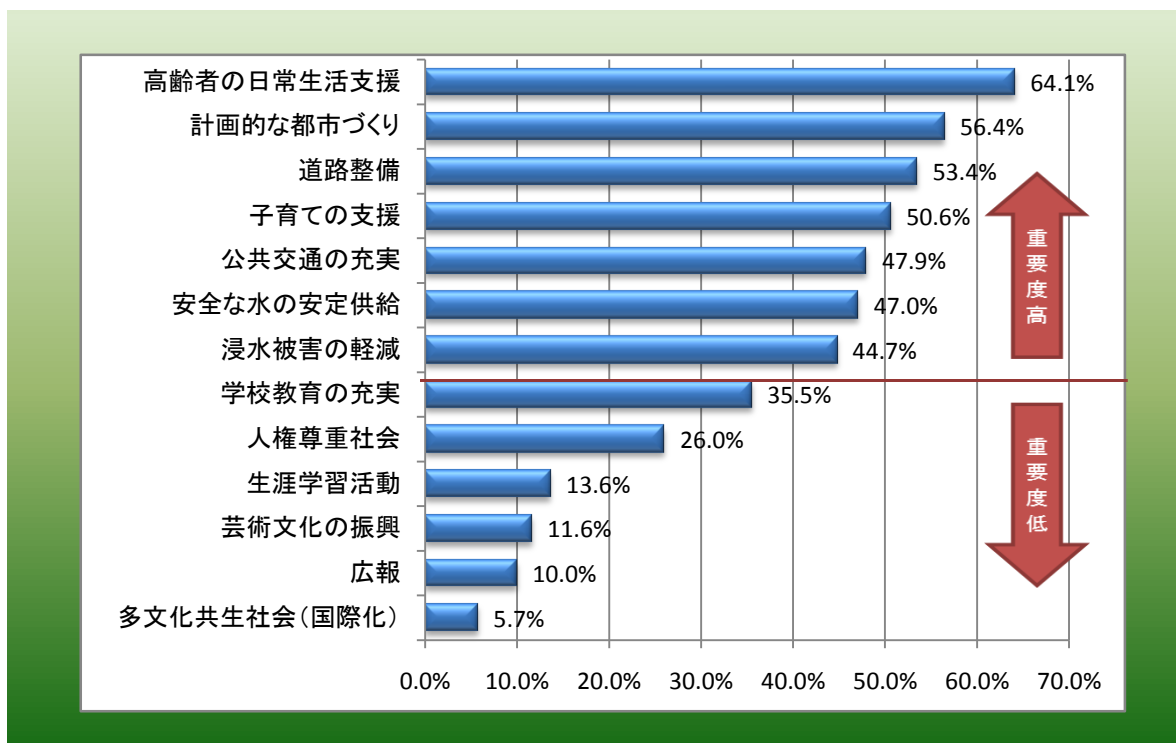
全項目の満足度の平均値プラス0.23ポイントと各項目を比較した結果、「人権尊重社会（0.82）」、「広報よしかわ（0.72）」、「安全な水の安定供給（0.76）」、「高齢者の日常生活（0.32）」、「多文化共生社会（0.31）」、「浸水被害の軽減（0.25）」、「計画的な土地利用（0.19）」、「子育てしやすさ（0.18）」、「生涯学習活動（0.10）」の9項目は、平均値より高い結果となりました。

一方、「道路整備（-0.25）」、「芸術文化に触れ合う機会（-0.18）」、「公共交通の充実（-0.15）」、「学校教育（-0.10）」の4項目は平均値より低い結果となりました。



6. 市の取り組みについての重要度

～ 市の取り組みについての重要度をうかがったところ、
回答者の6割以上が「高齢者の日常生活支援」が重要であると感じている



市の取り組みについて重要だと思うもの5つをうかがったところ、「高齢者の日常生活支援（64.1%）」の割合が最も高く、「計画的な都市づくり（56.4%）」、「道路整備（53.4%）」、「子育ての支援（50.6%）」は5割以上の回答者が重要であると感じています。

(重要だと思う項目を5つ選択)

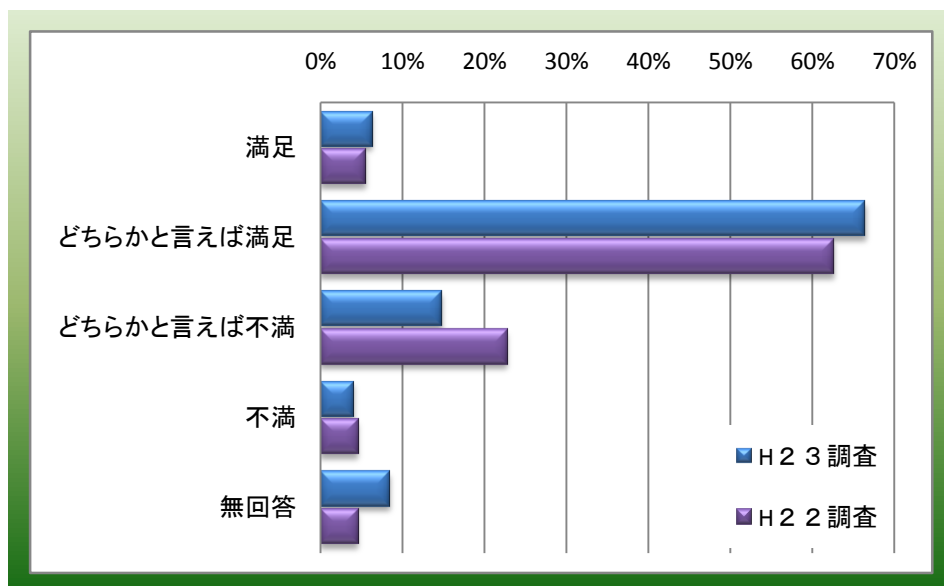
区分	実数	割合
高齢者の日常生活支援	560	64.1%
計画的な都市づくり	493	56.4%
道路整備	467	53.4%
子育ての支援	442	50.6%
公共交通の充実	419	47.9%
安全な水の安定供給	411	47.0%
浸水被害の軽減	391	44.7%
学校教育の充実	310	35.5%
人権尊重社会	227	26.0%
生涯学習活動	119	13.6%
芸術文化の振興	101	11.6%
広報	87	10.0%
多文化共生社会(国際化)	50	5.7%
無回答	19	2.2%
計	4,096	
中央値	350.5	



7. 吉川市全体の取り組みに対する満足度

～ 回答者の約7割が市民サービスへの取り組みについて
「満足・どちらかと言えば満足」と感じている ～

吉川市全体の取り組みに対する満足度をうかがったところ、「満足」（6.3%）、「どちらかと言えば満足」（66.5%）、「どちらかと言えば不満」（14.8%）、「不満」（4.0%）となり、「満足・どちらかと言えば満足」（72.8%）は前回調査（68.1%）と比較して、4.7ポイントの上昇となっています。



(1つ選択)

区分	実数	割合	
		H23調査	H22調査
満足	55	6.3%	5.5%
やや満足	581	66.5%	62.6%
やや不満	129	14.8%	22.7%
不満	35	4.0%	4.6%
無回答	74	8.5%	4.6%
母数	874	100.0%	100.0%



この概要版は、平成23年度市民意識調査報告書に掲載した内容の一部を記載したものです。

発行月 平成24年3月

発行 吉川市政策室

〒342-8501 吉川市吉川二丁目1番地1

048-982-9445 (直通)